

岩屋中だより

令和5年10月19日 NO14

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

市中総体駅伝競走大会・長崎市連合音楽会

1本の襷（たすき）に願いを込めて

長崎市中総体駅伝競走大会が10月4日（木）に行われました。男子が6区間、女子が5区間をタスキでつなぎ走りを競いました。会場にいった生徒たちは皆、夏休み前から長期にわたって練習を重ねました。早朝7時から練習を行い、本当によく頑張ってきました。10月3日（火）の激励会の折に、次のことを話しました。

- 選手として走る人は、その役割をしっかりとし、精一杯走る。
- サポートをする人は、しっかりとその役割を果たして、精一杯選手を支える。
- 応援をする人は、精一杯応援をして選手の背中を押し、その役割を果たす。
- 学校で応援する立場の人たちは、かきどまり陸上競技場で頑張っている人たちに、「頑張って！」と祈る。

選手だけが参加することに意義があるのではなく、それぞれの立場でその役割を精一杯果たすことがこの行事の大事なところである旨を伝えました。

当日は、総勢50名以上の生徒が、かきどまり陸上競技場周回コースを舞台に、精一杯頑張る様子が見られました。大変うれしく感じました。天候もよく、高台のため少し風はありましたが、無事に終わって帰校できました。結果については、以下のとおりです。

男子総合 12位

女子総合 4位

女子第5区 区間賞

参加した皆さん、ご指導いただいた先生方、大変お疲れさまでした。

閉会式終了後の全体写真です。

個人の力走の様子を写真でお伝えしたいところですが、WEBへのアップ等を鑑みて、全体写真にとどめたいと思います。ご理解ください。



長崎市連合音楽会3年4組が代表で出場

10月13日（金）、長崎市連合音楽会が行われました。岩屋中学校の代表として、3年4組が出場いたしました。3年4組は、合唱コンクールにおいて、金賞を受賞した学級です。合唱コンクールの金賞受賞学級だけあって、ブリックホールに美しい、感動的なハーモニーが響き渡りました。心がそろった美しいハーモニーは、聴いているすべての人に感動を与える素晴らしいものだと思います。合唱の様子を写真で紹介いたします。画像の解像度を下げています。ご了承ください。



全国学力・学習状況調査の結果から

上記学力検査の結果から、本校の現状・課題と今後の取組などについて分析したことをお知らせします。全国学力・学習状況調査では、国語、数学、英語においては全国および県平均を上回り、学年を経るごとに学力が向上しています。また、1・2年生の市および県の学力調査の結果も概ね市の平均を上回っています。諸学力検査の結果から、本校としての課題を以下のように考えています。

読解力や語彙力、自分の考えをまとめて書いて表現する力を伸ばしていくことや文章から心情を読みとる力を伸ばしていくことが重要です。また、既習した内容を生かして、表現や説明する力、用語や公式など知識が不足している面もあります。

本校の教育活動の中での学力向上のための具体的な対応等として、自分の考えをまとめ、それを書いて表現したり、AIドリルのキュビナを含め、問題演習を行ったりすることで基礎的内容の充実を図っています。詳細は、学校ホームページに掲載している最新版の学力向上プランをご参照ください。

なお、全国学力・学習状況調査の「生徒質問紙」によって、生活面なども含めた課題もありますので、ご家庭においてご助言・ご指導いただければ幸いです。

○将来の夢や目標を持たせていくこと。

○計画を立て家庭での学習を進めること。

(全くしていないと回答した割合が、全国・県の平均より高くなっています。)

○塾なども含めて1日あたり2時間の学習時間を確保すること。(本校は、2時間以上と回答した割合は、29%です。30分未満が17%となっています。)

○自分にはよいところがあると思う気持ちやそのように感じる材料を増やしていくこと。(自己肯定感の高揚)

○読書の推進

以上のように、課題の中で、主なものを記しましたが、家庭と学校で情報を共有し、の双方からのアプローチで学力向上を進めていきたいと考えています。なお、前号でも紹介しましたが、タブレットのキュビナは、AIを利用したアプリケーションですが、学習内容も小学校まで戻ることができたり、間違っただけを解析できたりして、繰り返す問題を作成するなど、上手に利用することで問題演習が可能です。ぜひ、ご家庭においてもご活用ください。(下記が、ホームページ掲載中の学力向上プランです。)

学校教育目標 R5 『心豊かでたくましく、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成』 **志は高く、思いやりの心は深く、心と体は強く**
研究テーマ R5 主体的に学び、豊かな表現力を身につけた生徒の育成 ～聞く力、読む力を高め、学び合い、伝える教育活動を通して～

長崎県 学力向上のための三つの提案を基にした本校の取組



「できた」「わかった」の笑顔があふれる授業	「夢・憧れ・志」を共に育む家庭・地域との連携	子供が成長する喜びを分かち合う職員室
<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて(課題)」と「まとめ」が子供に届く授業 ○ねらいに即した「書く活動」を重視する授業 ○「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の質と量を見極め、自主的な家庭学習の習慣化を図るための連携 ○子供の学びを認め合い、自己肯定感を高めるための連携 ○学校での学びを生かす場を創るための連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員が自校の課題を理解し、日々の授業改善につなぐ職員室 ○研修の機会を学校の内外に求め、学び続ける職員室 ○学年・教科・世代を超えて語り合う職員室
<ul style="list-style-type: none"> ・全授業での「めあて」「まとめ」を確実に生徒に届ける授業を、教科の実情に合わせて実践する。 ・失敗から学ぶとする態度を育むことを目的として、ペアやグループ活動を積極的に取り入れ、教え合い、認め合い、安心して学び合える雰囲気を作り出す。 ・表現力(思考する→書く、話す等)を育成するために、スモールステップを積み重ね、自分の力で表現する力の土台を築く指導を行う。 ・ICTを活用することで、多様な生徒達を一人も取り残すことなく、公正に個別最適化されたことによる各生徒の資質能力の育成を成し得る環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習のやり方(演習型、まとめ型)のパターンを複数提示して、毎日〇ページ、週〇時間以上など各学年で数値目標を決める。 ・授業や家庭学習でQubenaを活用し、個に応じた学習の推進を図る(1ヶ月で解答率300問以上)。 ・Chromebookの活用について「いつ」「どこで」「何を」するかを教科ごとに計画し、学期ごとに振り返り用紙に記入し、より効果的な利用法について検討する。 ・職業人講話、人権学習等あらゆる機会と、地域の人材を活用し、「夢・憧れ・志」を育む。 ・学校便り、学級通信等を通して、学力調査や学習状況調査の結果に基づいた課題や取組について家庭に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で過去の学力調査問題の分析・共通課題及び対策の検討をする。 ・年1回以上の全職員参観の研究授業を実施する。他者の授業を参観し合い、指導力を高める。 ・アセスや月1回の生活アンケートを活用し、生徒理解に努める。生徒の顕著なまたは些細な良い行動を共有し合い、自己有用感を高めるための声掛けを積極的に行う。月2回の学年会を含め、日頃から積極的に生徒の情報交換を行う。 ・すべての教師が道徳の授業を実施する。道徳や総合的な学習の時間、各教科における生徒の反応や授業の展開について気軽に意見交換できる職員室の雰囲気を作る。